

□ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

1 短歌にとつてリズムは、血液のようなものではないかと思う。ハートから送りだされたリズムが、歌のすみずみを駆けめぐるとき、歌は生き生きとしたものになる。血のめぐりが悪いと、肩がこったり顔色が悪くなったりすると同様、リズムがどこかでつつかえてしまうと、歌の力も弱くなってしまうようだ。

基本的には、日本語の五音七音というのは、それ自体がリズムのある音数である。A、なんとか五七五七七にまとめれば、リズムは後からついてくる、という考えかたもできるだろう。が、それでは消極的だ。言葉の並べかたや選び方がぎくしゃくしていると、五七五七七も今ひとつになってしまう。せつかく五音七音を使つのなら、ぜひ生かしたいもの。それは、歌を選んだ者の権利であり、ギムでもある。

以前、詩人の谷川俊太郎さんにお目にかかったとき、こんなことを言われた。

「あなたは、現代詩の敵です。」
やさしい表情からこぼれた、キビしい言葉に、私は一瞬、きよん。

「いかにして 定型からこぼれた自由になるか、新しい表現の形をつくりあげるか、ということこそ、現代詩は、コロコロみてきました。伝統的な定型を否定するところから、ぼくらは出発しているのです。だから、あなたは敵です。」

なるほど、と思った。敵という語には、現代詩から短歌へのエールが込められているのだ。現代詩が、それを否定することによって出発している定型というものを、私たちは逆に信じることから出発した。ことに、リズムによる恩恵というのは、現代詩から見れば「そんなにカントン」のつちやあって、ずるい」という感じなのだろう。「五音七音を使えば、標語だつて演歌の歌詞だつて、するするっと人の心に入ってしまうんだから」

B、選んだ以上は、リズムは私たちの味方なのである。いっぽうで禁欲的にかんばつている現代詩のためにも、特権を最大限に生かしたい。なにかの折に、ふつと口をついて出てくる歌というのは、まちがいにリズムがいいものだ。

2 具体的に作品を読んでみよう。石川啄木の次の二首、どちらのほうがリズムがいいと感じられるだろうか。

東海の小島の磯いその白砂しろすなに

われ泣きぬれて
蟹かにとたはむる

大海にむかひて一人
七八日
泣きなむとすと家を出でにき

テーマとしては、二首とも、孤独でちょっとナルシスティックな感情を詠んでいる。舞台も同じ海で、両方ともそこで泣くという歌だ。が、すらすらと詠めるのは、圧倒的に「東海の……」の歌のほうがう。「C」の音でなめらかにつながってきた上の句が、「に」で優しく一休み。そして「われ」と「ぬれ」とが響きあう。素材的にも、大きな海から小島、磯、われ、蟹……と、だんだんと小さなものにしほりこまれて、一気に結句まで流れるように読むことができる。「たはむる」は少し発音しづらいが、かえって一首を終わらせるためのブレーキをかけてくれるようで、心地よい。

いっぽう「大海に……」のほうはどうだろう。まず上の句に「D」「七八日」と二か所も体言止めがあるのが、なんとも重苦しい。ここで流れが、ぶつつぶつと切れてしまう。「泣きなむとすと」というのも、声に出してみると、かなりもたつく。しかも、初句で目の前に思い描いた海が、下の句にいくにつれて、ぼやけてしまう。これは回

想ですらなく、ただ泣こうと思って「家を出た」という歌なのだ、と結句に至つてわかる。イメージのうえでも、後戻りというのは、なめらかでない。さらに言えば、動詞が三回出てくるというのも、全体の流れを分散させてしまっている。

このように、同じ五七五七七であっても、言葉の使いかたでリズムのよしあしは、かなり違ってくる。

(俵 万智 『短歌をよむ』)
定型：決まった型。ここでは短歌が五七五七七の決まった音で作られることを指している。

エール：声援。応援の叫び。

標語：主義・主張・信条などを短く言い表した語句。

ナルシスティック：自分にうつつとりするほどひたる。

問1 線 a~d のカタカナを漢字に直しなさい。

a ギム b
c d
コロ()みる() カントン
ギム キビ()

問2 A・B に適することばを次のア~オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ところで イ だから ウ それとも
エ なぜなら オ しかし
A B

問3 線「短歌にとつてリズムは、血液のようなものではないかと思う」とありますが、筆者はどのような点でリズムを「血液のようなもの」と考えていますか。1の部分から適切なことばを抜き出し、次の(a)(b)を埋める形で答えなさい。ただし、(a)(b)ともに十五字以内とします。

リズムがよいと(a)けれども、リズムが悪いと(b)という点。

a
b

問4 線「消極的」の対義語を答えなさい。

[]

問5 一線 「あなたは現代詩の敵です」とありますが、これは「谷川俊太郎さん」と筆者の立場がどう違うからですか。二人の違いを本文中のことはを使って答えなさい。

問6 一線 「きよとん」とありますが、このことは筆者のどのような気持ちを表していますか。最も適切なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 失望
- イ 不安
- ウ 喜び
- エ とまどい
- オ 悲しみ

問7 一線 「リズムによる恩恵」とありますが、このことばの内容を具体的に表している一文を本文中から探し、最初の五字を答えなさい。

問8 C D に適することばを、Cは の歌から、Dは の歌からそれぞれ抜き出さない。

C	D
---	---

問9 一線 「言葉の使いかたでリズムのよしあしは、かなり違ってくる」とありますが、このことについて ・ の歌はそれぞれどのような部分から適切なことばを抜き出し、次の文の(a)～(d)を埋める形で答えなさい。ただし、(a)～(d)とも五字をこえないこととする。

c	a	d	b
---	---	---	---

二 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

「みんな、自分のことを自分で言う言葉にはどんなのがあるか、知るとるだけ考えてみい。」
生徒は首を左右に振ったり、うつむいたりして、考えると、 A
「先生!」「先生!」「先生!」

つぎつぎに指名が行われた。
「はい、じぶんと言います。」
「はい、わたしと言います。」
「はい、わたくしと言います。」
「はい、わがはいいと言います。」
「はい、われと言います。」
「はい、ぼくと言います。」
先生はそれらを一つ一つ白墨で大きく黒板に板書した。私も手を上げていたのであるが、一度も指名にあずからず、内心くやしくてならなかった。教室はもとの静けさにかえって、もう誰の手も拳がらなかった。
「もうほかにないかな。」
大倉先生は改めて教室を B 見回した。私はそのとたん、いきなり右手を高くさし上げた。
「あります。先生!」
心臓がとんとんと波打った。五十人の級友の瞳が C 私の上に注がれた。先生は静かに、
「須藤市太!」
と、私を指名した。私は息を D 立ち上がった。
「はい、おらとも言います。」

大きく、はつきりと答えて着席すると、級友達の爆笑が教室中に渦を巻いた。私はその 嘲笑に似た渦巻きの中で、はじめて自分のへまを感じた。が、一度口から出た言葉は取り返すすべもない。私はまた赤くなつてうつむいていると、その時いきなり立ち上がって抗議を申しこんだ生徒がある。
「先生、おらというのは下品な言葉です。そんな言葉を使っちゃいけんと、串本先生が言われました。」
見ると、それは山本医院の二番息子の山本春美であった。山本医院は村一番の 分限者で、春美は二年生の時までには級長をしていたが、三年生になってからは副級長にもしてもらえず、平の生徒になっていた。たぶん大倉先生がひいきをしなかったためであつたらう。少なくとも私たち生徒仲間では そういう 風評であつた。級長の職権をかさにきて生徒の並び方が悪いと言つて編み上げ靴で(春美は学校中でただ一人靴をはいていた。)私たちの素足を蹴つて歩かないだけでも、皆がどんなに嬉しかったかしのれない。

ところで、大倉先生は春美の抗議には何の返事も与えず、素知らぬ顔で黒板の続きに大きくおらと書き添えた。すると、春美はもう一度立つて、青い顔のうすい唇を前に突き出して言つた。
「先生!おらと言つてはいけんのじゃないのですか。」
その語調は、自分の意見を大倉先生にまで強いよつとするかのようには聞こえた。先生はしばらく黙つたまま、じつと春美の顔を見すえていたが、
「使つちやよいか悪いか、そんなことを今しらべとるのじゃない。」
小さくはあるが底力のある声で答えて、分厚な唇をぎゅつとひきしめた。教室がしんと静まつて、咳一つ出なかつた。たわいもないもので、全く人間というやつはたわいのないもので、さつきまで私を嘲笑していた五十人の級友は、ことごとく私の味方になつたかのごとく思われた。その 豹変ぶりに私はかえつて憎らしさをさえ感じた。

(木山 捷平 「甚三の春」)
嘲笑…あざけつてわらいものにすること。
分限者…金持ち。ものもち。
風評…世間の評判。うわさ。とりざた。風説。
豹変…自分の言動を明らかに一変させること。

問1 A C に適することばを次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A	B	C
<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 30px;"></div>

- ア いっせいに
- イ ひっそりと
- ウ ぐるりと
- エ われさきに
- オ おそろおそろ

問2 一線 「いきなり右手を高く差し上げた」とありますが、「私」はどうしてこのようにしたのですか。その説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ずっと答えが浮かばなかったのが恥ずかしくて、みんなを驚かせたかったから。
- イ ずっと手をあげていたのに指名されないのがくやしかったので、今度こそ答えたいと思ったから。
- ウ ずっと指名してくれなかった先生に対して腹を立てて興奮していたから。
- エ ずっと答えられないで級友に馬鹿にされてしまつのがこわかったから。

問3 D に適することはを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア のんで
- イ ころして
- ウ はずませて
- エ ひそめて

問4 一線 「赤くなってうつむいている」とありますが、これはどうしてですか。理由を六十字以内で答えなさい。

問5 一線 「山本医院は村一番の分限者で」とありますが、そのことを最もよく表している部分を二十字で抜き出し、その最初の五字を答えなさい。

問6 一線 「そういう風評であった」とありますが、それはどのような「風評」ですか。本文中のことはを使って五十文字以内で答えなさい。

問7 一線 「春美は青い顔の薄い唇を前に突き出して言った」とありますが、これは「春美」のどのような様子を表していますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 心の中の怒りを押さえて平静をよそおっている様子。
- イ 心の中の得意さが隠しきれないで顔に出ている様子。
- ウ 心の中をつましく言えなくてもどかしがっている様子。
- エ 心の中の不満をありありと顔面に浮かべている様子。

問8 一線 「その豹変ぶりに私はかえって憎らしさをさえ感じた」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の意見を持たない軽薄な態度だと思えたから。
- イ 「私」の発言を認めてくれた大倉先生に対する侮辱だと思えたから。
- ウ 発言を無視された山本春美に対して気の毒に思えたから。
- エ 実は「私」の味方になるふりをしているに過ぎないと思えたから。

問9 本文を通して「大倉先生」はどのような先生だと思われれますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生徒の発言を無視し自分自身の意見を押し付ける先生。
- イ 生徒の感情に左右されず正しいと思うことを通す先生。
- ウ 生徒の役割を公平にし絶えず級長を交替させる先生。
- エ 生徒の間違った答えを根気よく訂正して指導する先生。

問10 次のア～オの文の() に適することはを指定字数のひらがなで答えなさい。

- ア 彼の行動は、() けてよは() 2字。
- イ () 2字 () 早く帰つたら、遊びに行() 。
- ウ ぜび、その本を貸して() 4字。
- エ まるで鳥が飛んでいる() 3字。
- オ どうして欠席したのです() 1字。

問11 次の() の漢字の部首名と総画数をそれぞれ答えなさい。

痛	航	脈	郷

部首名

総画数